

論文題目 図画工作科の鑑賞教育における想像力を育む学習指導の開発
—探究的な対話と模写を取り入れた絵画鑑賞を通して—

論文要約

本研究は、自己の生き方を見つめ、生きる意味や価値を新しく創り出すことに関わる想像力を育むために、効果的な学習指導法を鑑賞教育の実践研究によって開発することを目的としている。提案する学習指導法の特徴は次の2点である。1点目は、模写を通して美術作家の創造活動に見出せる創造的思考プロセスを児童に経験させる学習内容の設計である。2点目は、本質的な問いを中心に据えた探究的な対話型鑑賞法の実践である。2点の学習指導法を実践するための学習構成は、「初めの鑑賞→模写と鑑賞→終わりの鑑賞」である。

本研究では、評価指標を基に想像力の質的变化を分析し、開発した学習指導法の有効性を検証するために、アクション・リサーチによる検証授業の分析及び検証を基に省察を加え学習指導の開発を行った。始めに予備研究では、仮説的に作成した想像力の評価指標をもとに、広島大学附属小学校（5年生）で検証授業を実践した。次に研究1では、研究仮説を立て直し、鑑賞題材を開発し、広島大学附属小学校（1・3・6年生）での検証授業を実践し、想像力の質的变化を分析するための評価指標を作成した。研究2では、学習指導法を改善し、研究協力者による公立小学校（1・3・6年生）での検証授業を実践し、評価指標に基づき児童の想像力の質的变化を分析した。アクション・リサーチの結果を踏まえ、児童の想像力の質的向上を図ることのできる学習指導法の効果を考察し報告している。